

ブラジル 果実の輸出拡大を目指す

[FreshPlaza](#) 2025年6月17日

ブラジルは果実生産国として中国とインドに次ぐ世界第3位に浮上しており、また農産物貿易で引き続き重要な役割を果たしている。しかし、高付加価値の果実の輸出では23位にランクされている。ブラジル果実生産者輸出業者協会(Abrafrutas)のデータによると、同国を上回っているのは、少ない順にスペイン、中国、オランダ等の国々である。2023年のブラジルの果実輸出額は13億米ドル、主要品目はマンゴー、メロン、ブドウ、レモンで、輸出量は約110万トンと総生産量の1%に満たなかった。

この状況にはいくつかの根本的な要因が関係しており、ブラジルが国際市場でのシェア拡大のために埋める必要のある溝を明らかにしている。同協会のギリエルメ・コエーリョ会長は、二国間協定の推進、灌漑プロジェクトへの投資、物流の改善、小規模生産者の協同組合化の奨励等、必要な措置を強調している。

同会長は、「ブラジルよりも大幅に大量の果実を輸出している多くの、特に中南米の国々では、それは人口が少ないためである」と指摘し、さらに、2億1千万人以上の人口を抱えるブラジル特有の市場力学があると指摘し、輸出増加の可能性を強調する。

ブラジルの果樹農業は、綿密に管理された剪定と収穫のスケジュールにより、年間を通じた継続的な出荷の恩恵を受けている。対照的に、チリ、南アフリカ等の競争相手には、季節的な制約がある。ブラジルの多様な気候と土壌は、リオグランデドスル州とサンタカタリーナ州で産出されるリンゴや、主にパラ州とアマゾナス州から供給されるアサイー(アサイヤシの実)等の様々な果実を支えている。さらに、ブラジルは果実を輸出するために必要な種々の国際認証基準を満たしている。

貿易交渉と新市場の開拓は、果実輸出の成長を促進した。例えば、ブラジル産のブドウやメロンを中国に輸出するための議論は、最終的に適切な海上輸送サービスの確立に繋がり、輸送時間が大幅に短縮された。コエーリョ会長はまた、輸出の拡大における農業畜産省とブラジル貿易投資促進庁(Apex-Brasil)をはじめとする政府と関係機関の功績を評価している。輸出の伸びは明らかで、2024年には前年比4.6%増加した。

生産・輸出能力を強化するための取り組みとしては、特に北東部での公的な灌漑への投資がある。セルタンペルナンブカーノ運河のプロジェクトは大幅な拡張を想定しているが、それを実施するための政府の支援を待っている。コエーリョ会長は、その良好な気候と水資源から、北東部の半乾燥地域が持つ可能性を強調する。さらに、物流の改善と協同組合モデルの育成により、輸出の取り組みを前進させることができる。業界内で相当の部分を占めている小規模生産者達は、輸出に伴う困難を軽減するために協同組合的な戦略の恩恵を受けられる可能性がある。

出典: DatamarNews